

# マドリーム通信

在スペイン日本国大使館附属  
マドリッド日本人学校  
文責 堀内正樹  
令和元年7月2日 No. 4

## 日本語のシャワー

毎日暑い日が続きますが、スペインの夏は湿度が低く、日本の夏とは体感温度が違うような気がします。日本は今、九州地方を中心に大変な雨に見舞われているようで心配です。

現在、マドリッド日本人学校は、夏季体験入学が始まり、正規生・短期生・体験入学生を合わせて40名を超える児童生徒数で生活しています。子どもたちにとって、一緒に生活する友達が増えることは本当にうれしいようで、毎日生き生きとした表情で活動に取り組んでいます。しかし、この時期は、児童生徒一人一人の日本語の習得の差がある中で教育活動を進めていくこととなります。「日本人学校では日本語できちんと話さない。」と児童生徒に指導するものの、休み時間の子供たちの会話はスペイン語と日本語が混じったものになることもあります。

さて、日本語には一つの状況を表すにも繊細にその違いを表現するという特徴があります。例えば「雨」に関する言葉が大変多く存在します。「五月雨、時雨、にわか雨、霧雨、こぬか雨、氷雨…」雨の降り方や季節感の違いを日本人は昔から巧みに表現してきました。これは「雨」に限ったことではありません。日本語には色や感情をきめ細かに表す言葉も大変豊かです。このため、日本文学を外国語に翻訳するのは困難を極めるそうです。感情の機微を言い表す言葉が多いということ、漢字の数の多さ、敬語の複雑さも日本語の習得が困難だといわれる所以です。

こんな話を聞きました。日本でも最近では嫌なことに対し「ムカツク」の一言で片づけてしまう若者が増えているようです。「悲しい、寂しい、せつない、つらい、わびしい、はかない…」。たくさんの心情を表す言葉が存在しそうですが、バスが遅れたときも、失恋した時も、感情を表現する言葉が同じのようです。何とも寂しい話です。

言葉が一つ増えることは、心が一つ増えることだといわれます。それだけ相手の気持ちを受け入れることができるようになり、「優しく」なれるということです。

この期間、日本語のシャワーを子どもたちに浴びさせ、学びを深めるためだけでなく、少しでも日本の心を伝えられたらと思います。



## 7月の予定

1	月	全校集会
2	火	
3	水	給食なし
4	木	児童生徒企画集会
5	金	部活動実施
6	土	
7	日	
8	月	小学部チャレンジ漢字テスト 中学部奉仕作業
9	火	
10	水	給食なし
11	木	
12	金	夏季体験入学最終日 部活動なし
13	土	
14	日	盆踊り大会(児童生徒出演 19:45)
15	月	振替休日
16	火	水泳学習発表会予行
17	水	水泳学習発表会 保護者全体会 面談
18	木	委員会
19	金	終業式 12:20 下校
20	土	
21	日	
22	月	
23	火	
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	
31	水	

## 宿泊体験学習

6月5日(水)から3日間、Albergue Miraflores El Colladitoにて宿泊体験学習を行いました。小学1年生から中学3年生まで全校での活動です。小学部の児童は「自分のことを自分でする」を目標に、中学部の生徒は「先を見て行動する」を目標に活動に取り組みました。晴天に恵まれ、カヌー体験からアスレチック、ハイキング、夜の星空教室まで、ほぼ予定したすべての活動を終えることができました。活動によっては、モニターの説明を日本語に翻訳する場面もありましたが、小学生も中学生もスペイン語がわかる

児童生徒が通訳として活躍しました。  
子供たちの振り返りの作文を掲載いたします。

●たのしかったしゅくはくたいけん  
小学部1年 K.H

ぼくは、ぶらんこがたのしかったです。かぬーもたのしかったです。それからアーチェリーもたのしかったです。でもまとはあたりませんでした。ふつかめのよるりゅうきくんといっしょにおふろにはいりました。たのしかったです。



●たいけん学しゅうたのしいな  
小学部2年 U.D

しゅくはくたいけん学しゅうでたのしかったことはターザンロープとぶらんこみたいなやつとアーチェリーです。その中で一番すきになったのはターザンロープです。

ターザンロープよりたのしかったのはカヌーです。もちろんおとうさんとおかあさんが、いないから、さびしかったです。アーチェリーはすごくむずかしかったです。一日目にシャワーをあびたときに、ぼくは、気持ちよくて、ずっと入りたくなりました。いちばんつかれたのはハイキングでした。

とてもいいしゅくはくたいけん学しゅうになりました。



●しゅくはくたいけんがくしゅう  
小学部2年 I.K

はじめの日にバスにのってわたしのとなりにイレーネちゃんがすわっていて、じゃんけんぼんをしたりしおりに絵を書いたりしてたのしかったです。ついたときみんながおりてじぶんのにもつをもってならんでついたところ

の中でモニターさんが名前をおしえてくれました。女のモニターさんの名前はイレーネさんという名前です。そして男のモニターさんの名前はアイトールさんという名前でした。クライミングもしてたのしかったです。そして三日かたのしかったです。



●宿泊体験学習  
小学部3年 O.C

わたしが宿はく体けん学習で一番楽しかったことはターザンロープとアーチェリーです。なぜかというとなターザンロープははやかたからです。

やをひくのがたのしかったです。わたしのそのときの気持ちは、たのしい気持ちでした。アーチェリーはうれしい気持ちでした。わたしはそのとき友だちやモニターさんに

「わあああーあーあ。」  
と言って、あぶないとおもいました。



●「アスレチック」  
小学部5年 Y.K

「大じょうぶだよ。」

友だちが、アスレチックからおちるのがこわかったときにわたしに言うてくれました。その時のことを話します。

宿泊体験学習で一番楽しくてこわかったのは、アスレチックでした。みんなを見ていた時は、できると思いました。どんどんわたしの番が近づいてきました。自分の番がきた時こわくなりました。心がどきどきしておなかがいたくなりました。でも、モニターさんがわたしのことをすごくおうえんしてくれました。それが一番うれしかったことです。そのおかげで、わたしは、もうこわくなくなりました。一回やったときは、ちょっぴりこわかったけど、またやりたかったので二回やりました。二回やったときには、もう、こわくなくなりました。むずかしそうにみえたけどさいごまでできたのでほっとしました。



●宿泊の思い出  
小学部5年 N.R

「これからバスレクを始めます。」わたしはバスの中でレクをするバスレク係です。「これからだれが、どこで、何をしたゲームを始めます。」

わたしは説明やチーム分けを発表する担当になりましたがちゃんと出来るか心配でした。みんなが書いて、できあがった文章を読んでいると、みんなが笑っていたしトイレ休けいでも文章を言いながら笑っていたので、バスレクを楽しんでくれたんだと思います。

一番楽しかったのは箱積みです。箱積みとはいっぱい箱を積みながら上へと上がっていく遊びです。わたしが箱に乗ると、思っていたよりぐらぐらしました。積み上げていくうちにもっとぐらぐらし、下の箱がずれたりしてこわかったです。七こ積み上げて、「そろそろ十こだ。」という時に、下の箱がずれてくずれました。高い所でヘルメットと命づなをつけてたくさん箱を積み上げていくのは工事をしている人みたいになりました。

今年は高学年になり、一人で係の仕事をするのも多かったけど自分で選んだ係だったのでがんばろうと思いました。レクのルールが分からない人もいて大変でした。みんなにわかってもらうように見本をやって見せたり、わかりやすい説明を家で書いたりしました。最後はみんなにルールを分かってもらい、楽しんでくれたと思います。今年成功できたのはしっかり準備してきたからだと思います。これからも自分にあたえられた係をがんばりたいです。



### ●宿泊体験学習で学んだこと

#### 中学部2年 S.N

運動会が終わり、1週間足らずで、宿泊に向けての準備が始まりました。そのとき、めあてを確認しました。私が特に頑張ろうと決めていたのは「スペイン語学習の成果を生活に生かす」というめあてです。

そして当日、スローガンである「響け！マド日 みんなで団結 自分から」と一つ追加された「最終日、全員が無事に帰ってくる」そして、自分のめあてを胸に出発しました。

この宿泊で特に心に残ったのは、ハイキングと天体観測です。ハイキングでは、山の中に入っていくと、マドリッドなどでは感じる事が難しい自然を感じる事ができました。マド日に咲いているのに名前を知らない花や、山の歴史、山で見られる生き物について知れました。また、山の頂上からクワトロ・トレスが見えたり、とてもきれいな景色が見えました。

天体観測では、少しくもってはいましたが、寒かったからか、星がきれいに見えました。星を見ながら、モニターさんたちがギリシャ神話について教えてくれたりもしました。普段は町の明かりで見えませんが、電灯も少ない山は星がきれいに見えました。

残念ながら、スペイン語は少ししか使えませんでした。それでも、小学1年生から中学3年生までが団結し、1人1人が自分のことは自分でし、先を見て行動しました。

そして何より、大きなケガもなく、全員が無事に帰ってくる事ができて良かったです。このメンバーでいける最初で最後の宿泊を楽しめて良かったです。

来年は中3なので、今年の中3の5人のように低学年をまとめ、リーダーシップを発揮できたいと思います。



### ●宿泊体験学習で学んだこと

#### 中学部3年 S.Y

今回の宿泊体験学習は私にとって最初で最後のものでした。まず純粋に「楽しかった」。そう思います。普段、触れることのできない自然と接し、アスレチックをし、みんなと長い時間一緒に過ごすことができました。そんな中で新たに学んだことが一つあります。それはその時にしかできないことを考え、あたえられた環境をぞんぶんに生かすということです。宿泊体験学習一日目。カヌーが終わり着がえが終わった人から横の広場で遊んでいました。体調が悪く元気に遊ぶことができなかった私は隅で絵を描いていました。そんな時、室垣先生に声をかけられ言われました。「それやったら家でもやれるやろ。」と。確かにそうだと思います。その一瞬一瞬でしかできないことはたくさんあると思います。このマド日で過ごす一見



長く見える期間も、遠目で見るとすぐに過ぎてしまう瞬間だと思います。このマド日で、この仲間としかできないこと一期一会を大切にしながら過ごしていこうと思います。

### ●宿泊体験学習で学んだこと

#### 中学部3年 T.A

今回宿泊体験をして2つ学んだことがあります。一つ目は、下級生と触れ合えたところです。今まで僕はあまり下級生と話していませんでした。でも、この宿泊の食事のときは、すごく話ができ、いい機会になったと思います。

二つ目は、良い経験を得ることが出来たことです。僕は特に、箱をのせて登るゲームが好きでした。ゲームの内容はある箱があってそれに乗ってもっと箱をのせるというゲームです。そこで、みんなが「はこの位置ズレてるよ」とか色々言ってくれてすごくうれしかったです。

これが特に印象に残ったことでした。。



## 学校公開週間

6月26日から28日の3日間、学校公開週間が行われました。教室での授業だけでなく、体育の水泳の参観、理科の植物観察など授業によっては、暑い中、外で行われた活動もありましたが、多くの来校者の皆様に日頃のマド日の様子をご覧いただきました。

お忙しい中ありがとうございました。



## 草取りボランティア参加

マドリード日本人会が7月14日(日)に行われる同会主催の「盆踊り大会」に向けて、6月29日(土)に草取りを行いました。日本人会会員のボランティアの方々が中心となって、マド日の運動場に集まり作業されましたが、中には、マド日の児童生徒や保護者の方々にも参加していただきました。

コミュニティー(地域)の一員としてこのような活動に参加し、たくさんの大人と話したり、関わったりすることは子どもたちにとって大切なことだと考えます。校内だけでなく、コミュニティーでも「自分が役に立った」という体験をさせていきたいと思います。暑い中参加していただいた児童生徒と保護者の皆様、ありがとうございました。



## マド日の学び

### プール開き、水泳学習始まる

6月17日にプール開きが行われ、水泳学習が始まりました。プールで遊ぶことはあると思いますが、目標を決めて練習をし「泳ぎ切る」という経験をすることは少ないのではないのでしょうか。

児童生徒一人一人が水泳学習の目標を立てました。7月17日に水泳学習発表会が行われます。この日に、目標の到達度を披露します。それに向けて現在一生懸命練習しています。当日は精いっぱい泳ぎを期待しています。



## 工夫を凝らした報告会

宿泊体験学習報告会が6月18日に開かれました。この報告会のねらいは「宿泊体験学習で自分が学んだことをわかりやすく相手に伝える」ことです。それぞれの学年が宿泊体験学習に出かける前にど



のような方法で報告するのかを決めて取り組みました。小学部1、2年生は「作文と歌・ダンス」。小学部3、4年生は「新聞」。小学部5、6年生は「短歌」。中学部は「プレゼンと劇」で報告しました。宿泊体験学習を終えてから発表まで準備する時間は少なかったのですが、どの発表もわかりやすく伝えるための工夫が凝らされており、報告会において下さった保護者の方からもお褒めの言葉をいただきました。これからも様々な場面で「伝える力」を身につけていきたいと思えます。



## 派遣教員のつぶやき

### 違いを感じて

Y.M

先日「さしを使って線を引きます。」と言ったら通じませんでした。「さし」は「ものさし」のことなのですが…岡山弁のようです。さて、5・6年生の朝のスピーチで「スペインと日本」について話す機会がありました。小学生目線の素直な意見が微笑ましかったので紹介します。

まず、みんな口を揃えて「日本のお菓子はどこのよりも美味しい」といった食べ物のお話。他にも「日本人はマナーを守る。壁に落書きしないし、ポイ捨てしない。そういう礼儀正しい所はいい。」とのこと。一方で、「スペインは優しいしおしゃべり好きな人が多い。どこでも話しかけてくれる。けど日本人は冷たい。だってスマホばかりで、他の人に興味ないみたいじゃないですか。あと、あんまりあいさつもしない。」だそうです。なるほど。「〇〇人だから…」とステレオタイプになってしまうとよくないですが、文化の違いを肌で感じ、子どもたちなりに鋭い視点で物事を見ているのだなあと感じました。

スペインに来て、3か月が経ち、あらゆる場面で「日本と違う部分」に触れる機会があります。教員間では、各都道府県の違いの話で盛り上がることもあります。国のことに限らず子どもたちもきっとそうで、「違うから…」と言うのをよく聞きます。「違う」ということをマイナスに受け止めるのではなく、「違うから、面白い」と感じてくれたらいいと思います。また、「違う」と感じるということは知らず知らずのうちに自分のものさしで物事を見ているということだと思います。自分のことや、自分の育った文化を見つめなおす機会にしたいですね。

